

紀州街道

岸和田城下図

岸和田 だんじり祭り

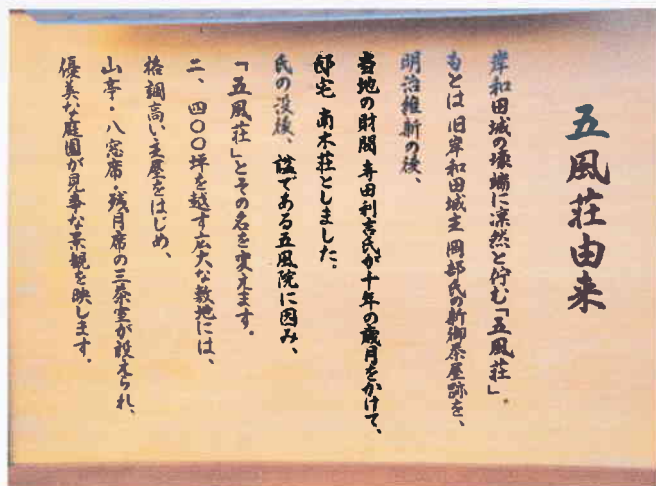


だんじり祭りの発端は元禄16年(1703)、岸和田藩主 岡部長泰が京都伏見稲荷大社を岸和田城内三の丸に勧請し、五穀豊穡を祈願して行った稲荷祭がその始まりと伝えられます。
岸和田市で82台のだんじりがあり、大きく9つの地区に分かれます。
そのうち2地区が9月に祭礼を行い、残りの7地区(山手地区)が10月に祭礼を行っています。

20 五 風 荘

岸和田市岸城町18-1

- ▶ 「五風荘」は、旧岸和田城藩主岡部家の御茶屋跡に明治維新後、寺田利吉氏が昭和4年(1929)から10年の歳月をかけて造営された邸宅と広大な回遊式日本庭園になっています。正門は奈良東大寺塔頭中性院表門を移築したもので、岸和田にゆかりの深い楠木氏の「楠」の字をもじって「南木門」と称されています。3千坪の敷地には日本建築の粋をこらした主屋と庭園を見渡せる三つの茶室があります。一時閉鎖されていましたが、「がんこ岸和田五風荘」として平成21年(2009)9月10日にオープンしました。



21 岸城(きしき)神社

岸和田市岸城町11-30

- ▶ 岸城神社は、正平17年(1361)頃、農民が五穀豊穡を祈って築いたのが始まりとされています。この神社は、岸和田城の鎮守社で、城が「千亀利(ちぎり)城」と呼ばれたのにちなんで、縁結びの神として参詣者が多いようです。約300年の伝統がある「岸和田だんじり祭」はこの神社の例祭です。明治29年(1896)建立の社殿が改築され、平成20年(2008)8月25日に新社殿が完成しました。



22 岸和田藩武家屋敷跡

岸和田市岸城町

- ▶ 佐々木家と須藤家の武家屋敷がそのまま残っています。
家老の中 与左衛門(1500石)は現在の岸和田高校に、同じく家老の久野三郎兵衛(1300石)は現在の市役所駐車場にありました。



甲南大学と岸和田藩士

岸和田藩士に平生唯辰(ひらおただたつ)という藩士がいました。彼は勤王派と佐幕派を仲裁役を果たし自ら困難な藩政を処理し藩を救いました。

平生家に養子を迎えた夙三郎は実業界で手腕を発揮し、日本製鉄会社の会長を務め、甲南大学を創設しました。

吉田松陰の死

安政6年(1859)10月27日、江戸伝馬町の獄で斬首刑に処せられ執行されました。
執行前の直前の口吟です。

吾れ今国の為に死す、死して君臣に負(そむ)かず。
悠々たり天地の事。鑑照、明神に在り。

安政六年十月二十七日「辞世口吟」

